

「ガイドンス 確率統計」正誤表

初版 1 刷, 2 刷, 3 刷, 4 刷の正誤表 (2025 年 9 月 10 日)

東京都立大学の松山洋教授, 酒井裕司さん, 廣田翔真さんには 4 刷発行後に誤りをご指摘頂きました。ここに謝辞を述べさせていただきます。

頁	場所	誤	正
3	和事象と積事象の説明文	この和事象と積事象を内包的記法で表すと	この和事象と積事象を それぞれ 内包的記法で表すと
26	定義 2.1.4	(2.3) で与えられる離散分布が あって ,	(2.3) で与えられる離散分布が 存在して ,
33	定義 2.1.6	ある密度関数 $f(x)$ が あって ,	ある密度関数 $f(x)$ が 存在して ,
54	注意 2.3.5	ここで, $x \wedge y$ は x と y の 小さい方 , $x \vee y$ は x と y の 大きい方 とした.	ここで, $x \wedge y$ は x と y の 最小値 , $x \vee y$ は x と y の 最大値 である.
55	演習 2.2	約何 cm 以上あればよいか答えよ (表 C.1 を利用すること).	約何 cm 以上あればよいか答えよ. (表 C.1 を利用すること.)
55	演習 2.3	a は整数とし,	a は -1 と異なる 整数とし,
55	演習 2.6	ただし $a \vee b$ は, $a \geq b$ のときは a であり, $a \leq b$ のときは b である.	ただし, $a \vee b$ は a と b の 最大値 である.
60	系 3.2.1 の証明	ここで, $a \wedge b$ は a と b の 小さい方 , $a \vee b$ は a と b の 大きい方 とした.	ここで, $a \wedge b$ は a と b の 最小値 , $a \vee b$ は a と b の 最大値 である.
64	定義 3.2.4	ある同時密度関数 $f(x, y)$ が あって ,	ある同時密度関数 $f(x, y)$ が 存在して ,
67	定理 3.2.1 [証明]	さらに, X と Y が独立であれば, X と Y の周辺密度関数 $g(x)$ と $h(y)$ に対して,	さらに, X と Y が独立であれば, X, Y の周辺密度関数 $g(x), h(y)$ に対して,
74	例 3.2.4	このことから, 相関の強弱を -1 以上かつ...	このことから, 相関の強弱は -1 以上かつ...
98	演習 3.1	ただし $X_1 \vee X_2$ は, $X_1 \leq X_2$ のときは X_2 であり, $X_1 \geq X_2$ のときは X_1 である.	ただし, $X_1 \vee X_2$ は X_1 と X_2 の 最大値 である.
99	演習 3.6	ただし, $X \wedge Y$ は X と Y の 小さい方 , $X \vee Y$ は X と Y の 大きい方 とする.	ただし, $X \wedge Y$ は X と Y の 最小値 , $X \vee Y$ は X と Y の 最大値 である.
117	補題 5.1.1 の証明	したがって , 任意の正の実数 $r \geq 0$ に対して, 不等式	ゆえに , 任意の正の実数 $r > 0$ に対して

頁	場所	誤	正
117	補題 5.1.1 の証明	ここで, $P(N) > 0$ であり, $r \geq 0$ は任意の実数であるため,	ここで, $P(N) > 0$ であり, $r > 0$ は任意の 正 の実数であるため,
118	定理 5.1.3	実数 μ と正の定数 $K < \infty$ が あって ,	実数 μ と正の定数 $K < \infty$ が 存在して ,
124	命題 5.2.1 の証明	ただし, $N_1 \vee N_2$ は N_1 と N_2 の 大きい方とする .	ただし, $N_1 \vee N_2$ は N_1 と N_2 の 最大値である .
127	定理 5.2.2 の証明: (5.60) 式	$\frac{n!}{k!(n-k)!} p^k q^{n-k} \approx$	$\frac{n!}{k!(n-k)!} p^k q^{n-k} \approx$
130	定理 5.2.3 の証明: $h_n(t)$ の定義	$(t > -\sqrt{n})$	$(t \geq -\sqrt{n})$
130	定理 5.2.3 の証明: $h_n(t)$ の定義	$(t \leq -\sqrt{n})$	$(t < -\sqrt{n})$
130	定理 5.2.3 の証明	自然数 n を十分大きく取れば $t > -\sqrt{n}$ をみたすため,	自然数 n を十分大きく取れば $t \geq -\sqrt{n}$ をみたすため,
158	7.1 節	このように, H_0 を棄却するか, 受容するか判定を行うことを	(改行に伴う空白) このように, H_0 を棄却するか, 受容するか判定を行うことを
169	(7.50) 式	$\tilde{T}_n = \frac{\sqrt{n}(\bar{p}_n - p)}{\sqrt{p(1-p)}}$	$\tilde{T}_n = \frac{\sqrt{n}(\bar{p}_n - p)}{\sqrt{p(1-p)}}$
170	7.4 節 (2 箇所)	次の 2 つの 同値関係が近似的に成り立つ と考えてよい.	次の 2 つの 必要十分条件が得られる と考えてよい.
171	7.4 節	次の 2 つの 同値関係が成り立つ .	次の 2 つの 必要十分条件が得られる .
174	定理 A.1.1	このとき, 次の 条件 $f'(c) = 0 \quad (a < c < b)$	このとき, 2 条件 $f'(c) = 0, \quad a < c < b$
174	定理 A.1.2	さらに 次の 条件 $\frac{f'(c)}{g'(c)} = \frac{f(b) - f(a)}{g(b) - g(a)}$ $(a < c < b)$	さらに 2 条件 $\frac{f'(c)}{g'(c)} = \frac{f(b) - f(a)}{g(b) - g(a)},$ $a < c < b$
174, 175	定理 A.1.2 の証明	このとき, $F(a) = F(b)$ をみたすため, ロルの定理より, 次の 条件 $F'(c) = f'(c) - \frac{f(b)-f(a)}{g(b)-g(a)}g'(c) = 0$ $(a < c < b)$	このとき, $F(a) = F(b)$ をみたすため, ロルの定理より, 2 条件 $F'(c) = f'(c) - \frac{f(b)-f(a)}{g(b)-g(a)}g'(c) = 0,$ $a < c < b$
175	定理 A.1.3	a は実数か $\pm\infty$ とする. 関数 $f(x)$ と $g(x)$ は, 点 a の近くで定義されており,	a は実数か $\pm\infty$ とする. 定義域が同じである 関数 $f(x)$ と $g(x)$ は, 点 a の近くで定義されており,

頁	場所	誤	正
178	定理 A.2.1 の証明	ここで、 $k \wedge l$ は k と l の小さい方、 $k \vee l$ は k と l の大きい方とする.	ここで、 $k \wedge l$ は k と l の最小値、 $k \vee l$ は k と l の最大値である.
179	補題 A.2.1	ここで、 $k \wedge l$ は k と l の小さい方、 $k \vee l$ は k と l の大きい方とする.	ここで、 $k \wedge l$ は k と l の最小値、 $k \vee l$ は k と l の最大値である.
182	補題 A.4.1 の解答	$P(X \geq 3) = 1 - \{0.134 + 0.271 + 0.271\} = 0.324$	$P(X \geq 3) = 1 - \{0.133980 + 0.270666 + 0.272033\} = 0.323321$
182	補題 A.4.1 の解答	$P(X \geq 3) \approx 1 - \{0.135 + 0.271 + 0.271\} = 0.323$	$P(X \geq 3) \approx 1 - \{0.135335 + 0.270671 + 0.270671\} = 0.323323$
182	補題 A.4.1 の解答	この 0.323 という値は、あくまで 0.324 の近似値である.	この 0.323323 という値は、あくまで 0.323321 の近似値である.
208	A.17 直行行列の基本性質・正規直交化法	定理 6.1.2 (基本的な統計量の標本分布に関する結果) で証明が必要となる、「直行行列の基本性質」(命題 A.17.1) と	定理 6.1.2 (基本的な統計量の標本分布に関する結果) の証明が必要となる「直行行列の基本性質」(命題 A.17.1) と
233	演習 7.3 の解答	なお、例 2.3.5 より、 $E(X_k) = (1 - p)/p$ である. よって、母数 p_0 のもとでは $E(X_k) = 5$ が成り立ち、母数 p_1 のもとでは $E(X_k) = 1/5$ が成り立つ.	(左記の赤字部分を全て削除)
237	参考文献 [10]	日本統計学会公式認定 統計検定 1 級対応 統計学基礎, 東京図書, 2017.	日本統計学会公式認定 統計検定 1 級対応 統計学, 東京図書, 2017.